

<2>

放課後、授業を終えたハンドボール班の高校生と中学生が同じグラウンドに集まり、一緒に準備運動を始める。練習によっては先輩が後輩に基本動作を教える場面もあり、12歳から18歳までの生徒たちは共に汗を流す。

班活動は、最大で6歳も年の離れた中高一貫校の生徒たちが同じ時間を共有する数少ない機会の一つ。ハンドボール班中学1年生の宮澤文香さん(12)は「いろいろと教えてくれるので心強い」と、班活を通じて先輩の存在を実感する。

高校生の側は「年齢の離れた弟や妹と一緒にいるようでかわい子(さん)」、「先輩を指導すると基本を見直す

性を育てほしい」と教育的な効果に期待する。

付属中の班活は、高校の36班(運動系16、

高校生と一緒に班活動

年齢差も効果に期待

生が80人しかいないことなどが理由だ。付属中の班活のうち、団体活動としてモデルケース的に設けたのが高校

1の練習に取り組むことも多い。付属中ハンドボール班顧問の新谷逸也教諭は「全国を目指す先輩たちを身近に

は、レベルの違いが大まかいことから、いまのところ中学生だけで活動している。ただし、高校受験がなく中学3年次の夏以降も継続して活動できるため、顧問の工藤雅史教諭は「6年間で生徒たちがどのように成長していくか楽しみ」と期待を膨らませる。



一緒に活動する中学生(写真手前)と高校生のハンドボール班

吹奏楽班の青木祐人君(12)は「今は自分たちだけでわいわい楽しんでいるけれど、今後、高校生と一緒に練習する機会もあると思う。両方を体験できるのは一期生の醍醐味(だいごみ)です」と話している。

付属中の児玉隆副校長は「異年齢集団が同じ目標に向かって進むことができるのが班活の良さ。子供たちには人間関係を広げ、社会

文化系20)に対し、運動系6班、文化系5班と少ない。個別のチームづくりが必要な団体競技を中心に、施設面や指導者の不足、1年

で伝統と実績のあるハンドボールと吹奏楽の二つの班だ。ハンドボール班は中学生と高校生が同じグラウンドで同じメニュー

と指摘する。これに対し吹奏楽班掲載の予定です(次回)は6月上旬に

公立一貫校・歴代高付属中の初年度